

令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	<p>「質実剛健」の伝統訓を基調にして、互いに切磋琢磨し、人間性豊かで社会的に自立した職業専門人の育成に努める。 (スローガン) ~感動あふれる学校づくり~ 生徒が互いに協調し合いながら、自らが主体的に学習・部活動・進路・競技会・学校行事等において高い目標に挑戦しながら感動を共有することができ、明るく元気で活力ある学校づくりを目指す。 ふるさに誇りを持てるよう、地域社会との連携を深めながら、地域の活性化に貢献できる人材の育成に繋がる指導を充実させ、生徒の達成感・充実感を高められる学校づくりを目指す。</p>		
2 評価する領域・分野	◇教務部 教育課程・学習指導		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>◇教育課程 ・テストの得点だけでなく、いろいろな面から学習の評価を行っている。 80% ・先生は、授業や家庭学習への指導・支援等を通して一人一人の能力に応じた指導を行っている。 77% ・教科により習熟度別授業や少人数授業又はオンライン授業があり、それが学習の理解につながっている。 69% ◇学習指導 ・熱心に学習指導・生徒指導などに取り組んでいる先生が多い。 92% ・専門的知識が豊富であり、授業内容について信頼できる先生が多い。 88% ・授業の教え方や説明が分かりやすい先生が多い。 80%</p>		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>①授業規律の徹底 ②「確かな学力」を育むため、探究的な学びやICTを活用した学習活動の充実に向けた授業改善の推進 ③一人一人が主体的に学ぶ力を身に付けるための、指導方法や評価の工夫改善を行う。 ④「読む力」を向上させるための指導を充実させる。 ⑤若手教員の育成</p>		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<p>・教育課程委員会 ・教科会における授業改善に関する取組情報の共有化 ・校内研修担当者を中心とした研修組織</p>		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
<p>(1) ノーチャイム週間 (2) 積極的なICTの活用による授業の効率化 (3) 若手教員対象の研修</p>	<p>(1) 生徒の学習姿勢 (2) 公開授業 ・学習指導要領改訂に伴う授業改善 ・ICT機器の活用状況 (3) 研修後のアンケート</p>		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<p>・ノーチャイム週間を実施し、自ら時間を意識した行動を身に付けさせる ・ICT研修の実施 ・活用しやすいICT環境の整備 ・授業参観と意見交流 ・「タイムマネジメント」研修の実施</p>	<p>①生徒の学習姿勢と組織的な取組みができたか。 ②ICT機器の利用率。 ③研修参加者の意識の変化はあったか。実際に行動できたか。</p>	<p>A (B) C D A (B) C D A (B) C D</p>	
11 成果・課題	<p>○ノーチャイム週間を設定することで、生徒が時間を意識することができた。 ○コロナ禍において、オンラインによる遠隔学習指導を実施。コロナ禍でなければ、ICT機器を使用することがなかったかもしれない教員も含め全教員がICT機器を利用した授業を行うことができた。 ○公開授業週間を実施し、互いの授業を参観し授業評価をしようことができた。 また、生徒による授業評価より、指導方法や評価方法の工夫改善に努めること</p>		<p>総合評価 A (B) C D</p>

	<p>ができた。</p> <p>○若手教員対象の研修会を実施し、参加者の時間の有効利用や、同僚の悩みや苦しみを共有することができた。</p> <p>▲公開授業週間後、授業参観者が意見を授業者に伝えることはできているが、積極的な教科での研修は行えていない。</p>	
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若手教員対象の研修会は継続して行っていく。 ・公開授業に合わせて、教科研修会を開催し、授業改善に努める。 		

2 評価する領域・分野	◇生徒指導部 生徒指導・教育相談・特別活動	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>◇生徒指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間としての基本的なモラルやマナーを身に付けさせようと努めている。 96% ・いじめや差別を許さず、厳しく対応している。 93% ・体罰はない。 91% ・新型コロナウイルス感染症など、緊急時への対応について、必要な情報を一斉配信メールサービス（すぐメール）や学校ホームページで速やかに提供している。 88% <p>◇特別活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部講師の講演や様々な体験活動等の授業以外の学習機会や学校行事の有無、又はその実施方法等について、生徒の安全を最優先とし、新型コロナウイルス感染症対策を講じて適切に計画している。 87% ・ホームルーム活動の時間は、今後の自分にとって意義のある内容になっている。 81% ・部活動が適切な管理体制のもとに、活発に行われている。 86% ・生徒会活動が活発である。 64% ・ボランティア活動の大切さを教えると同時にその機会を提供している。 71% 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>①各学年団と協力し、「社会人として通用する商業生を育てる」取り組みを行う。</p> <p>②教育相談の充実と外部教育相談機関との迅速な連携を図り、スピード感をもって事案の対応に努める。</p> <p>③アルバイトルールの見直し、実態に合ったルール作りを進めていく。</p> <p>④100周年を機に「制服の見直し」について検討する。</p> <p>⑤生徒会及び各種委員会を活用し、学校を盛り上げられるような取り組みを行う。</p>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年団、特別活動、生徒会との連携と学校行事の見直し ・教育相談体制の充実とケース会議等の素早い対応 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<p>(1) 社会人として通用する商業生を育てる取り組み</p> <p>(2) 教育相談の充実と外部相談機関との迅速な連携</p> <p>(3) アルバイトルールの見直し</p> <p>(4) 制服の見直し</p> <p>(5) 生徒会及び各種委員会を活用し、学校を盛り上げられるような取り組み</p>	<p>(1) 常識ある身だしなみ、年上とのコミュニケーション能力、集団生活への規範意識の向上</p> <p>(2) 困り感がある生徒への声かけ等の対応と情報共有</p> <p>(3) より実態に即したアルバイトルールの見直し</p> <p>(4) 創立100周年を見据えた、社会人として通用する中津商業生を意識した制服の検討</p> <p>(5) 学校行事、各種委員会、MSL活動を生徒会中心に企画運営させ、達成感を得られる教育的支援</p>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・年間5回の頭髪服装指導と事後指導の徹底、身だしなみを自己管理できるようにするための対話指導 ・毎週実施の生徒指導部会、各学年会、不定期での教育相談会での情報共有 ・生徒会中心での学校行事や各学年会主催のLHRを上手く連携させ、生徒同士の横の繋がりを意 	<p>①身だしなみの再発防止ができているか</p> <p>②教員による情報共有ができ、意志統一が図れているか</p> <p>③さまざまな行事において、生徒会、各HR委員、各種委員会等</p>	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>

識した教育的支援	で生徒による主体的な活動が できているか	
11 成果 ・ 課題	<p>○日頃から身だしなみ等が気になる生徒に対して、対話を心掛けた指導により、できるだけ生徒本人が納得し、自己管理することができるよう、身だしなみへの規範意識を高めることができた。</p> <p>○各学年、教育相談、特別活動課を中心に、生徒に「自他の存在を認め合い尊重する」という仲間意識や集団生活等での意識向上を踏まえ、社会人として通用する常識を身に付けられるような取り組みを推進することができた。</p> <p>▲一方で、社会人として通用する一般常識、マナー・モラルアップへの意識が不十分であり、自分で気づいて修正できる能力の向上が必要</p>	<p>総 合 評 価</p> <p>A ② C D</p>
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <p>・学校行事等や生徒指導的な事案（例えば、身だしなみ）を、生徒が自分（達）で「自主性」や「社会性」を意識し、考え、行動できるよう、教師側の共通理解を持ち、「社会人として通用する商業生の育成」を見据えた学校生活を経験させられる取組を充実させたい。</p>		

2 評価する領域・分野	◇進路指導部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>・生徒に適した進路情報を示し、生徒の可能性を引き出そうとしている。84%</p> <p>・生徒の将来の希望に沿った具体的な進路指導が行われている。87%</p>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>◇キャリア教育の充実</p> <p>◇生徒が自ら希望する進路を実現できるよう、確かな学力や専門的な知識、技術、表現力を身につけるための指導の充実</p> <p>◇生徒の適正に沿った就職先の確保</p> <p>◇難易度の高い大学に挑戦し、合格できる実力を養成するための指導の充実</p>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<p>・職業指導課、進学指導課</p> <p>・進路指導委員会</p>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<p>(1) 進路講話をタイムリーに実施できるよう外部と連携し、組織的に取り組む</p> <p>(2) 全生徒対象に校内模試や面接指導を実施する</p> <p>(3) 全学年で進学ガイダンスを実施する</p> <p>(4) 国公立や難関私立大学への進学対応に取り組む</p> <p>(5) 新規事業の「キャリアパスポート」や「中長期インターンシップ」に取り組む</p>	<p>(1) 講話の実施状況とアンケート実施</p> <p>(2) 面接指導やSPIテスト等の企画・提案状況</p> <p>(3) アンケートの実施、保護者の参加状況</p> <p>(4) 小論文指導や大学見学等の実施状況</p> <p>(5) 企画・進捗・完成度・実施状況</p>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評 価
<p>○進路ガイダンスの実施について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生は10月に大学・短期大学・専門学校23校、分野ごとの説明会を実施 ・2年生は11月に企業9社と市役所、卒業生12名による講演と各ブースでの説明会を実施、進学は27コースによる体験実習等を実施 ・3年生は8月に外部講師による就職面接指導や進学小論文指導などを実施 <p>○面接指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年生は2月に進学については中京学院大学から、就職については専門学校より講師を招聘して実施 ・3年生は6月と9月（就職希望者）と10月（進学希望者）に実施 <p>○難関校への進学希望者への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力テストや外部模試の実施（2年生6 	<p>①生徒アンケートの実施と分析は出来たか。</p> <p>②大学、卒業生、関係業者等との連携をはかることが出来たか。</p> <p>③進路諸行事の企画と提案状況</p> <p>④インターンシップ実習先の確保と生徒アンケートの分析</p> <p>③ 「進路ノート」の完成</p>	<p>A ② C D</p> <p>A ② C D</p> <p>A ② C D</p> <p>A ② C D</p> <p>A ② C D</p>

<p>回、3年生4回) ・資料頒布会の実施 ○新規事業への取組 ・学年会と協力し、「キャリアパスポート」(進路ノート)企画と作成 ・商業系部活動と連携して、中長期インターンシップの企画と実施</p>		
<p>11 成果 ・課題</p>	<p>○3年生就職希望者に対しは、コロナの状況下ではあったが、自分に合った進路選択を行わせ、ミスマッチや不本意入社等による離職者を出さない指導の充実を図ることが出来た。 ○3年生進学者についても現状に甘んずることなく、一段と高い目標に挑戦する意識づけと個々に対し、いろいろな入試方法や学習方法を説明し、補習等により入試対策を実施した結果、難関校に挑戦、合格する生徒が増えた。 ○2年生の希望者に中長期インターンシップを実施し、専門的な知識や技能に触れることが出来、進路選択に有意義なものになった。 ▲コロナにより計画していた進路行事を計画通り実施することが出来なかった。 1年生…6月進路講話、2月インターンシップ 2年生…6月進路講話、2月合同企業説明会 3年生…5月企業学校見学、8月就職支援セミナー、1月ビジネスマナー講座</p>	<p>総合評価 A (B) C D</p>
<p>12 来年度に向けての改善方策案 ・小論文指導について、今年度から全職員での指導体制を目指したが、来年度はさらに推進する。 ・看護・公務員希望者への指導が一部の教員の負担になっており、指導方法の見直しと改善を図る。 ・進路関係行事については学年会と連携した組織的な運営を行うとともに、行事の精選についての検討を行う。</p>		

<p>2 評価する領域・分野</p>	<p>◇商業教育 教育課程、学習指導、地域との連携等</p>	
<p>3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等</p>	<p>・課題研究の内容は自分にとって有意義である。(3年生のみ)77% ・先生は、社会人として通用する挨拶や言葉遣いなど、ビジネスマナーの指導に熱心に取り組んでいる。93% ・先生は、各種検定・資格取得の指導に熱心に取り組んでいる。95%</p>	
<p>4 今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<p>①確かな学力の育成を目指す ②心豊かな人間形成を目指す ③地域に必要とされる学校を目指す</p>	
<p>5 重点目標を達成するための校内における組織体制</p>	<p>・各コースに人員を割り振り、コース長中心に運営する。 ・コース長会議や商業会議の実施(月1回)</p>	
<p>6 目標の達成に必要な具体的な取組</p> <p>(1)基礎基本の定着化と専門性の深化 (2)各種検定、高度資格、各種競技会への積極的挑戦 (3)学力向上を支援するための、教育技術の向上 (4)基本的なモラルとビジネスマナーの定着 (5)意欲的、自主的、自律的な生活姿勢の育成 (6)開かれた学校作り</p>	<p>7 達成度の判断・判定基準あるいは指標</p> <p>(1)各種検定試験の合格者数や合格率各種競技会の結果 (2)保護者や外部の評価 (3)対外活動事業の成果 (4)生徒の学習に取り組む姿</p>	
<p>8 取組状況・実践内容等</p> <p>・全商検定試験などの合格者や合格率及び各種競技会での成果 ・授業規律の徹底、情報機器などの使用状況の把握 ・外部との連携事業、販売実習、出前授業、後援会等の実施</p>	<p>9 評価視点</p> <p>①各コースの検定目標や競技会での成果 ②授業時の挨拶・態度・授業終了後の教室状況 ③対外活動への参加状況</p>	<p>10 評価 A (B) C D (A) B C D (A) B C D</p>
<p>11 成果</p>	<p>○前期の授業数が少なく、特に一年生が商業科目での躓きを感じている。丁寧に補習や補充等も行い、生徒の理解向上に努めている。 ○中学生への出前授業の実施。</p>	<p>総合評価</p>

<p>・課題</p>	<p>○ほとんどのイベントが中止となっている中で、販売実習などが行われてはいない。しかし、各コースで工夫した形で外部との連携を行って探究学習へと進んでいる。今後の進展に期待したい。</p> <p>○今年のような厳しい状況の中でも、全商1級三種目以上取得者が微増した。</p> <p>▲4月～6月の臨時休校ため、例年受験する検定試験の受験者が減少しているため、現段階では評価が難しい。競技会等もほぼ中止となっており、成果を発揮する機会が今のところ少ない。</p>	<p>A (B) C D</p>
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携した取り組みが増えており、課題研究の内容が変化している。今後も、探究型の授業を実施し、地域に貢献できる活動を行う中で、生徒の意欲や自主性を育てたい。 ・ICT環境が整備され、それを活用した授業展開が行われ始めているが、教員によって差が出ている部分があるので、研修等を行い充実した授業ができるよう研修等を実施したい。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年9月7日、11月25日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・90%の生徒が「本校に入学できてよかった」と回答しており、学校に対する満足度が高いことがうかがえる。 ・学校評価アンケートの多くの項目で、「あてはまる」「ややあてはまる」が前年度より5%以上増えているとのことで、本校の熱心な取組の成果であると考えている。教職員の働き方改革については、まだ生徒たちにまで浸透していないという印象である。 ・ふるさと教育の取組について、各コースとも意欲的、主体的に取り組んでいる様子がわかった。 ・ふるさと教育の報告を拝見し、学校と地域と一緒に取り組めることがあるのではないかと感じた。相互に協力しながら、ふるさとに愛着を持ってもらえればと思う。 ・「質実剛健」のスローガンの基、教育方針や地域連携の取組など、それぞれの目標設定により着実に進んでいる。今後、益々進む少子化、定員割れなどへの対応として、卒業後に即戦力となるためのプレゼン能力や解り易いマトリックスの作成能力など、近未来のIoTなども視野に入れると就職率の向上につながるのではないかと感じた。 ・大学進学希望者が増える中、普通教科（特に外国語）などを強化し、進学もできる専門高校により特色を際立たせることができるのではないかと感じた。 ・コロナ禍の中、行事等において大変難しい状況であったと思う。また、情報伝達や授業対応等、今までにない業務も多かったのではないかと感じた。色んな工夫によってできることにしっかり取り組まれていると感じた。
--